

# 先進地を行く

ADVANCED DISTRICT

多自然型工法で水路整備を行う佐賀市へ

## 建設経済

建設経済常任委員会が12月8日、9日、先進地を視察しました。レポートを紹介します。

委員	副委員長	委員長
中島 征行	中島 藤美	中島 藤美
川村 利一	富安 斗	富安 斗
山北 清四郎		



### 捨石柵工法

木材や雑石の組み合わせ工法により整備したもの。生態系を最優先し、この工法を採用。階段工の設置や法尻に犬走りを設けているため、落水時の管理が容易であり、親水性と管理面でも優れた工法である。

### 生態系に配慮した工法で水路整備

佐賀市は平成8年から多自然型工法を採用している。「水と緑の環境整備ガイドライン」に基づき、特に自然素材である木材、石を多用した工法で工事を行い、工事後、数年が経過した箇所を選定し、視察した。

本町の水路整備では「練ブロック積工、コンクリート杭柵工、框柵工、木柵工」を、クリーク防災事業では「練ブロック積工とブロックマツト工の複合護岸」で主に

工事を行っている。

佐賀市の優れた工法を見て、今後は維持管理、施工コスト、環境保全（生態系配慮）の3項目を検討し、地域の実情も考慮しながら、何を優先するのかが選定していく必要があると感じた。

また佐賀市では、工事後は「水辺は住民が管理するもの」という考え方で、地元の方々と管理されている。地元で維持管理をしていく体制づくりに、理解を求めていく必要がある。



### ダム建設を含む大事業

唐津市西城の上場土地改良区を訪問した。

事業の概要や施設の維持管理方法、行政との関わり方などの説明を受けた。

この土地改良区では、国営上場土地改良事業と県営畑地帯総合土地改良事業を行っている。

国営上場土地改良事業では、地区内に5ダムを築造、松浦川より揚水して用水補給を行うとともに、農地造成と幹・支線道路の整備を行う。県営畑地帯総合土地改良事業では、幹線水路から分

### 空石張工法

木材や雑石の組み合わせ工法により整備したもの。構造物周辺はコンクリートであるが、雑石を併用し、環境に配慮した護岸になっている。

水し、直接、農用地へ導入する水路や散水施設の整備などを行う。

県営畑地帯総合土地改良事業が完了するため、すでに管理を行っている国営事業と併せて管理体制の整備を進めているところである。農業情勢の変化により、毎年、1千万円単位で増えている賦課金滞納や、将来必要である施設更新に必要な事業費の確保に苦慮しているそうだ。

その他、嘉瀬川ダムの現地視察も行った。